

科目名	幼児と表現Ⅰb（卒業必修：幼稚園教諭二種必修）		
授業形態	演習	学年	1
開講時期	2023 年度 後期	単位数	1
担当教員	河原田 潤、渡部 琢也、葉山 亮三		
内容および計画	「幼児と表現Ⅰb」について 「幼児と表現Ⅰb」では「幼児と表現Ⅰa」の学びをより深めるものである。[幼稚園教育要領における領域「表現」に基づき、基礎的・基本的な理論と実践についてより理解を深める。また幼児の発達段階に即して音楽表現、身体表現、造形表現が育まれていくか、各領域ごと学ぶ。各領域での学びを深め、幼稚園教育要領の領域表現のねらい、内容、内容の取扱いについて理解を深める。またこれまでの学びを踏まえてグループワークを行い、各領域の表現についてシェアリングし、理解を深める。 領域表現に関する科目について 幼稚園教育要領、保育所保育指針の定める5領域の中に位置するのが「表現」という領域である。「表現」のねらいは以下の3点 (1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。 (2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。 (3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。 これらを子どもたちに育むことができるよう、それぞれ科目が設置されている。また表現は音楽による表現、身体による表現、造形による表現に細分化されるが、これらが連動することで育まれる領域である。本学のカリキュラムには表現と名の付く科目が多く、煩雑である。それぞれの科目の立ち位置を整理し、理解したうえでそれぞれの科目を履修し学ぶことを求めるものとする。 領域に関する専門的事項に属する科目「幼児と表現Ⅰa」「幼児と表現Ⅰb」 「幼児と表現Ⅰa」は初めに学ぶ科目になり、子どもたちの表現とは何か、その特性、発達段階を踏まえた基礎的知識を学ぶものである。音楽表現、身体表現、造形表現を各領域について5回ずつ受講する。「幼児と表現Ⅰb」は「幼児と表現Ⅰa」では学びきれなかった音楽表現、身体表現、造形表現について基礎的な学びを深め、グループワークでシェアリングする。これらの2科目は領域「表現」のベース科目になる。 保育内容の指導法に属する科目「表現Ⅰa」「表現Ⅰb」 「表現Ⅰa」「表現Ⅰb」は保育内容の指導力を高めるための科目である。本学ではこの資質を身に付けるため、主に二つの活動を主軸としている。 一つが教材研究である。「幼児と表現Ⅰa」「幼児と表現Ⅰb」で学んだことを生かし教材研究を進め、それを指導法に転換する。指導計画案を作成し、模擬保育を行い、改善を図る。 もう一つは劇表現の実践である。劇表現は音楽表現、身体表現、造形表現が連動することで完成し、各表現のつながりを体験的に学ぶことができる。またグループ活動を主とし、学生間でブラッシュアップを図ることでアクティブラーニングの学びを得る。 どちらもPDCAサイクルを繰り返すことで指導力の向上を図る。 領域「表現」の学びを深める選択科目「音楽表現Ⅰ」「音楽表現Ⅱ」「音楽表現Ⅲ」「身体表現」「造形表現」 領域「表現」の学びを深めるため、選択科目が設定されている。 「音楽表現Ⅰ」「音楽表現Ⅱ」はピアノの演奏技術を身に付ける演習を主とし、保育者に必要な演奏技術を身に付ける。 「音楽表現Ⅲ」「身体表現」「造形表現」は「幼児と表現Ⅰa」「幼児と表現Ⅰb」の発展として設定され、基礎的な知識演習を押し広げ、より幅の広い表現の知識、方法を学ぶ。 本学は保育者を志す学生には「音楽表現Ⅰ」「音楽表現Ⅱ」の履修を推奨しており、「音楽表現Ⅲ」「身体表現」「造形表現」からも2単位履修することを推奨している。（社会福祉士受験資格に関する科目を多く履修するものを除く） より発展的な自由科目「こども実践演習Ⅰa」「こども実践演習Ⅰb」「こども実践演習Ⅱa」「こども実践演習Ⅱb」 これらの表現に関する科目をさらに深めるため、本学は自由科目を開講している。 「こども実践演習Ⅰa」「こども実践演習Ⅰb」は直接子どもと関わるイベントを企画・実践し、これまで培った表現に関する学びを実際に運用することができる。 「こども実践演習Ⅱa」「こども実践演習Ⅱb」ではピアノの演奏技術を学び、特に苦手意識を持つ学生が学生生活の2年間ピアノを学び続けられるように設定されている。		
1	自然物と表現 ～身近な自然物と幼児表現の関わり～（担当：葉山亮三）		
2	共同制作による表現 ～インスタレーション～（担当：葉山亮三）		
3	工作による表現 ～幼児の作る玩具～（担当：葉山亮三）		

4	製作物と表現 ～モバイル～（担当：葉山亮三）
5	保育現場で使用する小型楽器を使用した表現（担当：河原田潤）
6	保育現場で使用する大型楽器を使用した表現（担当：河原田潤）
7	保育現場で使用する楽器を使用して少人数の合奏を楽しむ表現（担当：河原田潤）
8	保育現場で使用する楽器を使用して大人数の合奏を楽しむ表現（担当：河原田潤）
9	身体運動表現～マット運動～（担当：渡部琢也）
10	道具を使った身体表現～跳び箱運動や鉄棒運動～（担当：渡部琢也）
11	縄を使った身体表現～短縄跳びと大縄跳び～（担当：渡部琢也）
12	雪上での身体表現～雪遊びやそり遊び～（担当：渡部琢也）
13	グループワーク①（担当：河原田潤、葉山亮三、渡部琢也）
14	グループワーク？（担当：河原田潤、葉山亮三、渡部琢也）
15	グループワーク③とまとめ（担当：河原田潤、葉山亮三、渡部琢也）

教科書

タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年
『幼稚園教育要領＜平成 29 年告示＞』		文部科学省		
『保育所保育指針＜平成 29 年告示＞』		厚生労働省		
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』		内閣府、厚生労働省、文部科学省		
『幼稚園教育要領解説』		文部科学省		

『保育所保育指針解説』 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府、厚生労働省、文部科学省
その他適宜、資料配布

参考書	「幼児の造形表現」 渡辺一洋 著 ななみ書房 発行（2015） その他適宜紹介する。
-----	---

成績評価

評価方法	割合(%)
音楽表現の課題実施及び提出状況とその内容	30
造形表現について、リアクションペーパー、作品等提出課題から各回 30 点で評価し平均値を評点とする。	30
身体表現の課題実施及び提出状況とその内容	30
グループワーク、まとめの課題	10

成績評価の 9 割を各領域評価、1 割をまとめの課題評価とする。

音楽表現、身体表現、造形表現それぞれ算出し、平均値を評点とする

学習到達目標	「幼稚園教育要領」「認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」における領域「表現」に基づき、幼児と表現 I a で学んだ理論と実践をさらに応用的に学ぶ。また幼児の発達段階に即して音楽表現、身体表現、造形表現が育まれていくか、各領域ごと学ぶ。各領域での学びを深め、領域表現のねらい、内容、内容の取扱いを理解する。
先修条件	
実務経験	実務経験あり : 職業としての音楽表現活動、造形表現活動、身体表現活動の実務経験
その他	

